

建築と暮らしの手作りモダン

アントニン&ノエミ・レーモンド展

CRAFTING A MODERN WORLD: The Architecture and Design of Antonin and Noémi Raymond

会 期：2007年9月15日(土)～10月21日(日)

休館日：9月18日(火)、25日(火) / 10月1日(月)、9日(火)、15日(月)

開館時間：午前9時30分～午後5時 [入館は午後4時30分まで]

観覧料：一般1000(900)円 20歳未満・学生850(750)円 65歳以上500円

* ()内は20名以上の団体料金です。

* 高校生以下の方、障害者の方はすべて無料です。

* 「ファミリー・コミュニケーションの日」無料招待：本年度は、展覧会期中の毎月第1日曜には、18歳未満または高校生以下のお子様を同伴のご家族は、全員無料となります。

会 場：神奈川県立近代美術館 鎌倉

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53

tel.0467-22-5000

主催：神奈川県立近代美術館、ペンシルヴァニア大学附属建築博物館、

カリフォルニア大学サンタバーバラ校付属美術館、読売新聞東京本社、美術館連絡協議会

協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、東京電力

協力：レーモンド設計事務所、docomomo_japan

■関連事業

レーモンド展記念シンポジウム

と き： 9月16日(日)午後1時～

と ころ： 鎌倉商工会議所ホール(鎌倉市御成町17-29、鎌倉駅西口下車徒歩5分、鎌倉市役所前)

発表者(予定)：ケン・オオシマ(ワシントン大学准教授)、クリスティーヌ・ヴァンドゥルディ＝オザノ
(ローザンヌ工科大学准教授)、松隈洋(京都工芸繊維大学准教授)ほか

定 員： 150名

※詳しい内容・申込み方法などについては、今後、美術館ホームページに掲載される情報をご参照いただくか、お電話にてお問い合わせ下さい。

■ギャラリー・トーク 9月21日(金)、10月12日(金)、各日とも午後2時～

美術館ホームページに掲載される下記のプレス情報をご覧ください。

http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/press/2007r_raymond.pdf

お問い合わせ先：

神奈川県立近代美術館 鎌倉

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53 tel.0467-22-5000 / fax.0467-23-2464

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/> 広報担当：平井 展覧会担当：太田、三本松

建築家アントニン・レーモンド(1888-1976)とその妻でデザイナーのノエミ・レーモンド(1889-1980)は、長く日本で活動して、日本におけるモダニズム建築・デザインの先駆者となったばかりではなく、近代と伝統、自然と芸術などについて独自の融合を実現し、日本美の再発見に、ブルーノ・タウトやイサム・ノグチにも匹敵する大きな役割を果たしましたが、これまで彼らの仕事がまとまったかたちで紹介されることは、日本国内でも海外でもありませんでした。

それには、レーモンドの仕事と資料が、日本とアメリカに分かれて存在し、そのいずれの国においても彼らが「異邦人」であったという事情があるでしょう。しかし、国境を越えてたがいに異質な文化を架橋したレーモンド夫妻の仕事は、今日ますます大きな意味をもっていると言えます。本展は、そのような視点から、日本、アメリカ、ヨーロッパの若い研究者が力をあわせ、実現された初めての大規模なレーモンド夫妻展です。

チェコ生まれのアントニン・レーモンドが、フランス生まれのノエミ・ペルネッサンと結婚したのは、1914年のことです。爾来、ふたりは60年以上に渡ってデザイン上のパートナーとなりました。アメリカに渡り、フランク・ロイド・ライトのアトリエで活動した彼らは、帝国ホテルを建設するライトに同行して来日し、その後、第二次大戦をはさみ40年にわたって日本で活動することになります(1919~1938/1949~1973)。

1920年代以来、モダニズム建築の先駆者として有名になっていったアントニン・レーモンドは日米で500以上の建物を実現しました。とくに日本でレーモンドが実現した多くの建物は、日本における近代建築の発展に対して大きな影響を及ぼしました。レーモンドの下で学び、その後、日本におけるモダニズム建築の旗手となっていった日本人建築家には、前川國男や吉村順三をはじめ数多くの人々がいます。

こうしたモダニズム=近代主義の先駆者である一方で、レーモンド夫妻は、また、日本文化のすぐれた理解者でもありました。民藝運動の創始者、柳宗悦をはじめ当時のすぐれた芸術家、思想家と親交をもったレーモンド夫妻は、日本の暮らしのすみずみを貫く美、伝統的な空間と生活の価値を深く理解しました。そこから彼らは、素朴な素材や手仕事を重んじながら現代的なデザインを生み出すという独自の道を切り開き、戦後のアメリカ建築などに大きな影響を及ぼしています。

本展は、世界と日本の文化を架橋しながら、真に人間性あふれるデザインを求め続けたレーモンド夫妻に関する初めての大規模な展覧会で、アメリカのペンシルヴァニア大学附属建築博物館、カリフォルニア大学サンタバーバラ校附属美術館で開催された後、日本に巡回するものです。

とくに日本展では、レーモンドの薫陶、感化を受けた日本人の建築家たちの仕事も併せて展示します。これによって、レーモンドの仕事の大きな広がりや日本における建築史的な意味をよりの確に理解することが可能になるでしょう。

■カタログ：

アメリカ展図録：Kurt G.F. Helfrich and William Whitaker ed., *Crafting a Modern World*.

The Architecture and Design of Antonin and Noémi Raymond, Princeton architectural press, 2006

日本展図録：別個にカタログを編集



1.

1. 軽井沢の夏の家 1933年
2. ライジングサン石油ステーション 横浜 1931年
3. 東京ゴルフクラブ 朝霞 1930-32年
4. ノエミ・レーモンド 稲田模様のラグ 1933年
5. 群馬音楽センター 1955-61年
6. 軽井沢の新スタジオ 1960-62年
7. ノエミとアントニン・レーモンド 葉山にて 1965年ごろ
8. ノエミ・レーモンドによる家具・調度類
フィラデルフィア会場での展示 2006年



2.



3.



4.



5.



6.



7.



8.